

令和6年度

学校評価報告書



綾瀬市立土棚小学校

※アンケートについて

・令和6年12月、1年生から6年生の児童220名、教職員15名を対象に実施しました。保護者からは175名分の回答がありました。

・グラフ中の数字は、百分率であらわした数字です。

☐ そう思う ☒ ややそう思う ☒ あまりそう思わない ☒ そう思わない ☒ わからない

1 学校は、「よく考える子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。

学校の取組

本校では、「自分の考えを持ち、前向きに取り組む子の育成～子どもの心が動く授業づくりを目指して～」というテーマのもとに校内研究に取り組んでいます。「授業のユニバーサルデザイン化」を授業改善の視点とし、論理的な理解に情緒的な反応が生じ「心が動く」と自分の考えを持って前向きに取り組めるようになると考え、すべての児童が楽しく「わかる・できる」授業づくりや共に学び合う力の育成を目指しています。また、家庭学習の習慣化を図るために各学年で家庭学習の取り組みせ方や内容を検討したり、自主学習の日を設定したりしています。

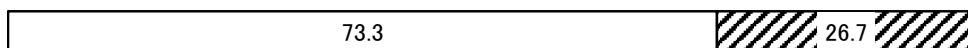
児童 設問 「勉強や宿題などをすすんでがんばっていますか。」



保護者 設問 「子どもは、宿題や家庭学習に取り組んでいる。」



教職員 設問 「基礎的・基本的な内容の定着を図り、学力の向上に努めている。」



今後に向けて

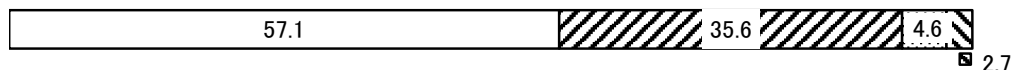
土棚小学校では、「学校として育成を目指す資質・能力」として目指す児童像を【丁寧に取り組む力】、【とことん考える力】、【一步踏み出す力】と設定しています。全教育活動を通し、これらの力の育成に努めていきます。アンケートでは、保護者・教職員とも概ね肯定的な評価であり、約8割の児童も意欲を持って学習に取り組んでいます。約2割の児童が学習に対し前向きに取り組めない理由を抱えていることが課題です。校内研究を中心とした授業改善では、今年度より教科を算数に統一しました。教科の特性としての既習事項を使って新たな課題に向かう流れを踏まえ、より一層基礎・基本の定着を図るとともに児童の学習意欲を高める工夫に力を入れていきます。また、学力の下支えとなる豊かな体験、経験が学校生活の中でできるよう年間計画等を考えていきます。家庭学習については、さらに充実が図られるよう、学習の仕方や内容をわかりやすく提示していきます。

2 児童は、学校行事に積極的に参加している。

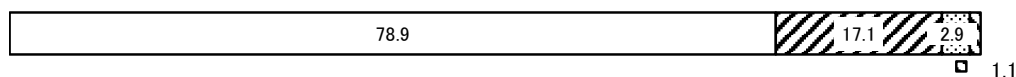
学校の取組

本校では、学校行事を行うにあたり、児童の実態を考慮しながらよりよい行事にしてい
くために全職員で行事のねらいを確認し実施しています。また、それぞれの行事等
において児童一人ひとりのめあてを明確にし、主体的に取り組めるようにしています。行
事を通して「何を学んだのか」という振り返りを大切にし、学んだことをどう生かして
いくか考えられるよう取り組んでいます。

児童 設問 「学校行事(運動会・音楽集会など)に積極的に取り組むことができましたか。」



保護者 設問 「子どもは、学校行事(運動会・遠足など)を楽しみにしている。」



今後に向けて

学校行事に意欲的に取り組んでいる様子がわかります。児童が集団生活の中で自らの
責任を自覚し、自らめあてをもって取り組むことが大切だと考えます。積極的に取り組
むことができなかったと思っている児童も、達成感が味わえ生き生きと活躍できるよう
に、今後も学校行事への取り組み方を工夫していきます。また、それぞれの行事を通し
「何を学んだのか」という振り返りの時間を大切にし、行事を通し身に付いたことは何
かを明確にするとともに、児童自身がそれらを生活やこれからの人生に生かしていける
ようにしていきます。

3 学校は、「思いやりのある子」を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。

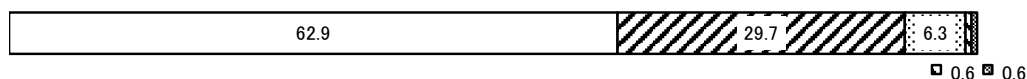
学校の取組

本校では、学校教育目標のひとつ「思いやりのある子」の育成のために、目指す児童
像にもあるように、【丁寧に取り組む力】に重点をおいて、挨拶や礼、友達や先生との
接し方、自己を取り巻く環境や物の扱い方など、日常生活を通して指導を行っていま
す。また、道徳教育、福祉体験、ショート学活等を中心とした全教育活動で「思いや
り」の心を育てる取組を行っています。

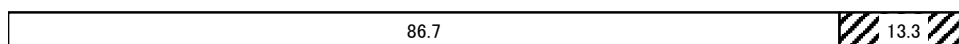
児童 設問 「学習やそうじなどの時、協力したり、相手の気持ちを考えたりして
学校生活を送ることができましたか。」



保護者 設問 「子どもは、友だちと仲よく生活している。」



教職員 設問 「児童同士のよりよい人間関係づくりに努めている。」



今後に向けて

多くの児童が、学校生活の中のいろいろな場面で友達と協力し、相手の気持ちを考
えていると答えています。道徳教育や福祉教室、ショート学活の中で、人との関わりや人
権に関する指導を繰り返し行っています。また、日常生活の中でも相手の気持ちを考
えて行動することの大切さを伝えています。今後も思いやりのある行動を認めたり褒め
たりしながら、全ての児童のよりよい変容を促すことで相互の温かな人間関係を育み、自
分の周囲にある環境や物に対しても丁寧に接していく気持ちを育てていく心の教育に一
層取り組んでいきます。

4 児童は、満足して学校の生活を送っている。

学校の取組

本校では、児童が互いを認め合い、温かな人間関係を育む学校づくり、学級づくりに努めています。全職員による全教育活動での見取りを基本とし、毎月1回のスクールアンケートを行い、児童の変容について分析しています。また、それらを活用していじめの早期発見・再発防止、児童理解に努め、児童が良好な友達関係を作れるように支援しています。学校が児童にとって居心地がよく、安心して自分の思いを表現できる場であることを前提として、そこで充足感に満ちた活動ができるように、教職員は児童の気持ちに寄り添って、がんばりを褒めたり励ましたりするようにしています。

児童 設問 「学校は、楽しいですか。」



□ 4.6

今後に向けて

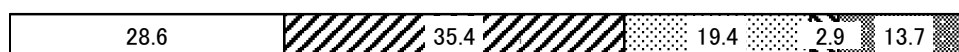
児童の約9割が「学校が楽しい」と回答し、学級や学校で友達と楽しく生活していると思われます。その一方で、約1割の児童が学校生活を楽しくないと感じています。今後も支援体制の更なる充実を図りながら、児童を取り巻く人間関係に職員全体で注視するとともに、一人ひとりの児童の思いが汲み取れるように見守っていきます。一人ひとりの個性を大切にして、お互いを認め合える関係づくりをしていきます。

5 学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。

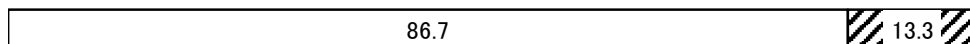
学校の取組

本校は、児童一人ひとりの友達関係の悩みやいじめを早期発見するために、全職員による全教育活動での見取りを基本とし、更に毎月スクールアンケートを実施しています。実施後、気になる児童がいた場合は、すぐに児童から個別に話を聞くなど、迅速かつ適切な対応に努めています。また、会議の際には職員全体で児童の様子について情報共有したり、いじめ防止委員会（月1回）で意見交換したり、よりよい解決方法や今後の指導の在り方、再発防止に取り組んでいます。

保護者 設問 「学校は、仲間づくりに取り組み、いじめの未然防止に努めるとともに、月1回のスクールアンケート等をもとにいじめの早期発見・早期対応に努めている。」



教職員 設問 「いじめの早期発見をし、再発防止に努めている。」



今後に向けて

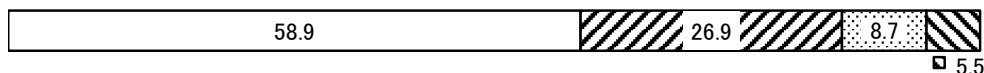
いじめの早期発見を目的として毎月スクールアンケートを行っています。嫌な思いをした、嫌なことをされている人を目撃したなどの記入があった場合や、学校が楽しくないと感じている児童がいた場合などは、担任が聞き取りをして、早期対応に努めています。記入することに抵抗感をもっている児童がいる可能性を考え、担任に相談しやすい関係づくりをし、躊躇せずに記述してよいということを伝えていきたいと思ひます。またスクールアンケートの他にも、定期的に取り組んでいるいじめ防止委員会、児童指導グループの取組等、学校が行っている指導や取組がありますが、保護者の方への周知が不十分であることがわかります。学校だより等を中心に引き続きいじめは絶対に許さないという強い姿勢を伝えていきます。児童や保護者が安心して話ができる環境づくりや、不安や悩みに応じるスクールカウンセラーの存在、常に教育相談に応じていること等を重ねて周知していきます。日常の様子をきめ細かく見たりしながら、いじめの早期発見・再発防止のための指導を徹底していきます。また、全教育活動を通して「思いやりの心」を育むとともに、いじめの未然防止に努め、一人ひとりが大切にされる学校・学級を目指していきます。

6 学校は、心と体の健康な子を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。

学校の取組

本校では、異学年で行うふれあい活動を中心として、豊かな人間関係づくりに努めています。1～6年までの縦割りグループで年間10回程度活動していて、児童は楽しみにしています。ふれあい班での遊びの活動は、学年間の交流や健康づくりの場となっています。また、6年生が中心となって遊びの準備をしたり、進行をしたりするため高学年としての自覚やリーダー性も育っています。また週1回のロング昼休みには外遊びを基本とし、健康づくりに努めています。

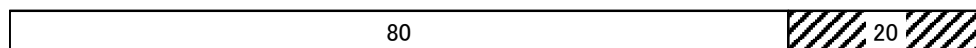
児童 設問 「ふれあい活動は楽しいですか。」



保護者 設問 「子どもは、ふれあい活動(ふれあいデー)を楽しみにしている。」



教職員 設問 「子ども同士のかかわりを深めるような取組をしている。」



今後に向けて

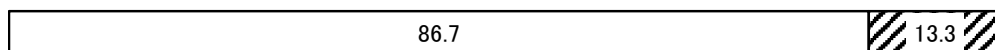
ふれあい活動は児童の多くが楽しみにしている活動です。各学年発達段階に応じて他学年との関わり方を考え、取り組んでいます。アンケートからもたくさんの児童がとても楽しく取り組んでいる様子がうかがえます。異学年集団の、教室とは少し違う雰囲気の中で、様々な遊びを通して活発に交流する姿はとてもほほえましいものです。グループでの活動をすることで、学級以外での所属感を高め、自己肯定感を高めていくことにもつながります。今後もこの活動だけでなく、毎日の児童の健康状態の把握を基本とし、体力の向上を目指すとともに、スクールカウンセラーとの連携等を行いながら児童の心と体の健康を目指していきます。

7 学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。

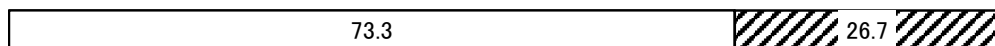
学校の取組

児童が安全に学校生活を送ることは最も大切なことです。本校では、全職員の共通理解のもと日頃から安全に気を配り、毎月1回、学校施設・設備等の安全点検・整備に取り組んでいます。また、登下校時にはボランティアやPTAの方々に児童の見守りをいただいています。避難訓練では、実情に沿って地震や火災の想定を大幅に見直し、全校防災研修を導入することで一人ひとりの危機意識を高めています。不審者が侵入した際の避難の仕方についても訓練を行い、指導しています。

教職員 設問 「児童の安全のための指導に取り組んでいる。」



教職員 設問 「児童が安全に過ごせるように施設・設備の点検・整備を定期的に行っている。」



今後に向けて

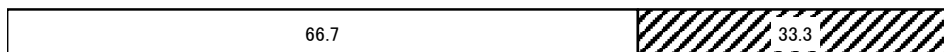
教職員が意識をもって、児童の安全のための指導や施設等の点検・整備にしっかりと取り組んでいます。しかし、児童を取り巻く社会環境の変化や近年の風雨災害の甚大化、昨今の能登半島地震や四国地方の地震の経験を踏まえ、大地震等の震災に対する備え等、学校として取り組むべきことは限りなくあると考え、現状の対策に付け加えていく形で、「火災や地震を想定した避難訓練」「不審者侵入時の避難訓練」「緊急一斉下校訓練」「防災引き渡し訓練」「あんしん教室」「全校防災研修」等を実施して、危機管理意識を高めていきます。また、ボランティアやPTAの方々の協力を得ながら、登下校の見守りなど、児童の安全対策について取り組んでいきます。

8 学校は、一人ひとりの児童に応じた支援の工夫をしている。

学校の取組

本校では、児童一人ひとりの特性・実態に応じた支援を行うために、教育相談コーディネーターが中心となり、スクールカウンセラー・学習支援者などの協力を得て、教育相談やティームティーチング等に取り組んでいます。ケース会議等を行い支援の方法を検討したり、全職員で情報交換をしたりして個々の児童に目を配り、より効果的な支援を行えるようにしています。

教職員 設問「一人ひとりの児童に応じたきめ細かな支援の工夫をしている。」



今後に向けて

教職員の全員が一人ひとりの児童に応じた支援の工夫を具体的に実践しています。今後も、一人ひとりの児童の困り感や保護者の教育的ニーズに寄り添いながら個に応じた支援の充実に努めていきます。また、児童に関する全ての事を担任が一人で対応するのではなく、児童指導総括教諭を中心に関係者とケース会議を開いたり、いじめ防止対策委員会において事案に応じた適切な対応を検討したりするなどして対応する事を基本とし、他機関とも連携しながらより効果的な支援を目指し取り組んでいきます。

9 校長を中心とした運営組織になっている。

学校の取組

本校では、校長のリーダーシップのもと、総括教諭を中心として4つのグループに分かれ、学校教育目標、学校経営方針、育成すべき資質・能力、目指す児童像の具現化を目指しています。それぞれのグループが責任をもって、学校運営上の業務や課題に取り組んでいます。

教職員 設問「校長の経営ビジョンを受け、各グループの役割が明確であり、有効に機能している。」



今後に向けて

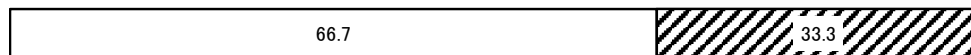
学校運営について総括教諭を中心として各グループで企画・立案されたものが、企画会議、職員会議を経て実践されています。今後も都度振り返ることで新たな課題を見出し、改善に向けて計画を立てるというサイクルを徹底し、よりよい学校となるように取り組んでいきます。また全職員が共通理解のもと実施できるように、職員一人ひとりが担当している行事や取組をねらいに照らして考え、各グループでよく話し合い、他のグループとも連携を図りながら進めています。引き続き組織が有効に機能することを目指し、グループ間の連携を深めて学校運営上の課題解決に向け、全職員が一丸となって取り組んでいきます。

10 学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。

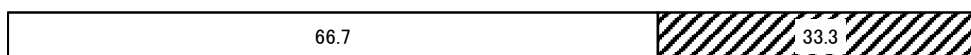
学校の取組

本校では、教職員の力量を高めるため、校内研究では外部から講師を招き、研究テーマに深く関わる「授業のユニバーサルデザイン化」について年4回の授業研究、協議会を行いました。また、職員研修でも、学級経営や外国語、情報教育、特別支援教育、実技指導等に励んでいます。さらに、校外の研究発表会や研修会に参加し、資料の回覧や研修報告をして情報の共有化を図っています。

教職員 設問「授業改善を意識した校内研究に取り組んでいる。」



教職員 設問「指導力向上に向けた研修に努めている。」



今後に向けて

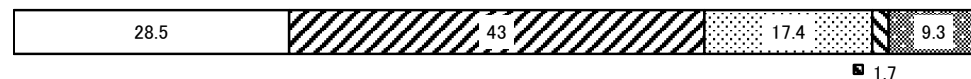
全ての教職員が、丁寧に取り組み、とことん考え、一歩踏み出す力の育成に努めていきます。教職員として、目まぐるしく変化する社会から求められる力、変わらず求められる基礎的・基本的な力を身に付けられるよう、校内研究・研修を通して指導力向上を目指し、取り組み続けていきます。また、あらゆる教科学習において今までの研究を更に深化させ、今後も質の高い授業改善に取り組んでいきます。

11 学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。

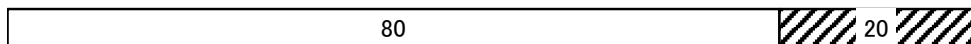
学校の取組

本校では、職員会議の際に、学年・学級の児童の様子についてきめ細かく情報交換を行い、児童指導に役立てています。情報を共有することで、より深く児童の実態を知ることができ、適切な指導につながるものと考えます。また、児童全体への指導の在り方についても、その都度全職員で共通理解しています。

保護者 設問「学校は、子どもたちの日常の様子に気を配り、よい点を認め伸ばす努力をしている。」



教職員 設問「児童理解に努め、個に応じた指導をしている。」



今後に向けて

約7割が肯定的な評価になっていますが、そうでない評価もあります。今後も個に応じた指導をしたり、より一層児童の実態や課題の把握を心掛けたり、共通理解のもと教職員一丸となって、児童が有意義な学校生活を送れるよう指導にあたっていきます。また、学校・家庭・地域の連携もより密にとれるように見直し、児童のよりよい成長につながるよう努めます。

1 2 学校は、保護者等に適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。

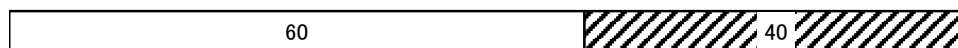
学校の取組

本校では、保護者や地域の方に学校の様子を知らせ、理解を得ることがよりよい学校づくりに欠かせないものと考えています。学校・学年だより、保健だより等で学校の様子を知らせ、学校の教育活動を伝える努力をしています。また、PTAや地域の様々なボランティアの方々と協力し合いながら、児童の健全な育成を図るように努めています。

保護者 設問 「学校の様子を、懇談会や学校・学年だより等で知ることができる。」



教職員 設問 「懇談・訪問・相談・便り・電話連絡等で、家庭とのきめ細やかな連携を図っている。」



今後に向けて

感染症の影響も少なくなり、学校生活や行事等の様々な活動が以前のように実施できるようになりました。そのため、保護者や地域の方に学校に来校してもらう機会も増え、コロナ禍では保護者からの肯定的な回答が8割を切っていましたが、昨年度からは85%を超え、学校に対する理解が高まってきていることが分かります。また、登下校の見守り、子どもたちへの読み聞かせ、花壇をきれいにさせていただくなど、たくさんのボランティアの方が学校に協力してくださっています。今後も様々な形で学校のことを理解してもらえるように、学校と保護者、地域との連携の推進、また学校からの情報発信の工夫に努め、各種たよりや授業参観・懇談会、学校、学年行事を通して児童の学習や活動の様子を伝えていきます。また、児童一人ひとりの様子を把握し、家庭とのきめ細かな連携を図り、安心して学校生活を送れるようにしていきます。一昨年度より立ち上がったコミュニティ・スクールの制度も活用しながら、保護者や地域の方に学校をもっと知ってもらい、また協働しながらより豊かな教育活動が行えるよう努力していきます。